

筑紫（九州）の万葉集と風景画シリーズ（第二十回）

「大宰府官人たちを送る宴たびたび」

あしき うまや やす
く 蘆城の駅家・安の野く

◎大宰府の高官が都に帰る際に送別の宴を張るのが常のようであった万葉集には次の二カ所で大宰府官人の送別の宴が開かれた際に詠われた歌がある。大宰府は西海道（九州・杵岐・対馬）を統括すべく設けられた地方行政機関（現・太宰府市）である。

1、「筑前国・蘆城の駅家」

・「駅家」は古代に官路を使い公務往来する際の駅馬をおいたところで、のちの宿場にあたる。

○神亀五年（728年）大宰少弐ださいのしょうに（大弐に次ぐ大宰府の次官）石川いしかわの

足人朝臣たるひとあそみが都に転任となり大宰府を去る時「蘆城の駅家」で開かれた送別の宴で詠われた次の歌がある。

あめつち
天地の 神も助けよ 草枕 旅行く

君が 家いたに至るまで

卷四—549 作者 未詳

（解説） 天地の神も加護を賜たまわって道中の安全を助けて

ください。はるばる都まで旅するこの方が家に帰

りつくまで。この歌は旅の安全を祈る歌であ

るが別れる時に贈るのが儀礼であった。

1) この歌が詠われた蘆城駅家の所在地については、江戸時代

の福岡藩の学者・貝原益軒は「筑前国続風土記」で「大宰

かいばらえきけん

府の南にあり蘆城の駅とて、むかし宰府より都へ行馬次の宿なり。蘆城より米の山と云所を通りしとなん」と述べる。

2) 「蘆城の駅家」については昭和53年(1978)に農地

改良事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査(筑紫野市教育委員会)で大宰府政庁跡から南東へ約3.5キロ、米の山峠へ

約5キロ離れた福岡県中央部にあたる筑紫野市の南東部に位置する筑紫野市大字吉木の水田下から奈良く平安時代のものと推定された掘立柱建物跡が発見された。この建物の推定される建築年代と同時に発掘された土器等から、この建物群は「万葉集」に歌われた蘆城の駅家の跡として有力視されている。

3) 今、建物群が発掘された蘆城駅跡推定地へ公共機関を使っ

て尋ねるにはJR鹿児島線「二日市駅」から筑紫野市の北

東部へ向い、築紫野市と筑豊・飯塚市の市境にある「筑前国続風土記」に書かれている米ノ山峠を越え飯塚市の市街地に至る筑紫野筑穂線(福岡県道65号線)が通る「吉木」行のバスに乗る。バスが二日市の市街地を過ぎると右手に

「阿志岐あしきの平野(筑紫野市)」があらわれその平野の中を「宝満川」が西南に流れている。この阿志岐の平野が万葉集に歌われている「蘆城野(巻八―1530)」であり、また、宝満川が「蘆城の川(巻八―1531)」と云われる。宝満川に沿った「吉木入口」バス停で下車し20〜30m直進すると交差する道路に至る。

- 4) この交差する道路は沿線に大宰府政庁(都府楼跡)・観世音寺など古代の史跡が残る筑紫野・大宰府線(福岡県道76号線)で太宰府市西部から筑紫野市東部の山家地域に至る。この交差点を右折し宝満川を渡ると田園地帯が広がるがすぐの右手、筑紫野市東吉木の水田下から蘆城駅家の跡と推定されている掘立柱建物跡が発掘されている。

- 5) この地から四方を見渡すと北方面面に堂々と位置を占める宝満山(869m)、福岡県筑紫野市と太宰府市にまたがる

山)と、その麓から流れてくる宝満川、南東には万葉集で「悪木山(巻十二—3155)」と詠まれる「宮地岳」、北西には太宰府の平野、二日市の平野が開け、これらの平野を囲むように、北から大宰府政庁(都府楼)跡の背後(北)に聳える大野山(現・四王寺山)、基山等の、当時の大宰府に深い関係のある山々が連ねる。この四方に見える風景はまさに万葉の原風景である。

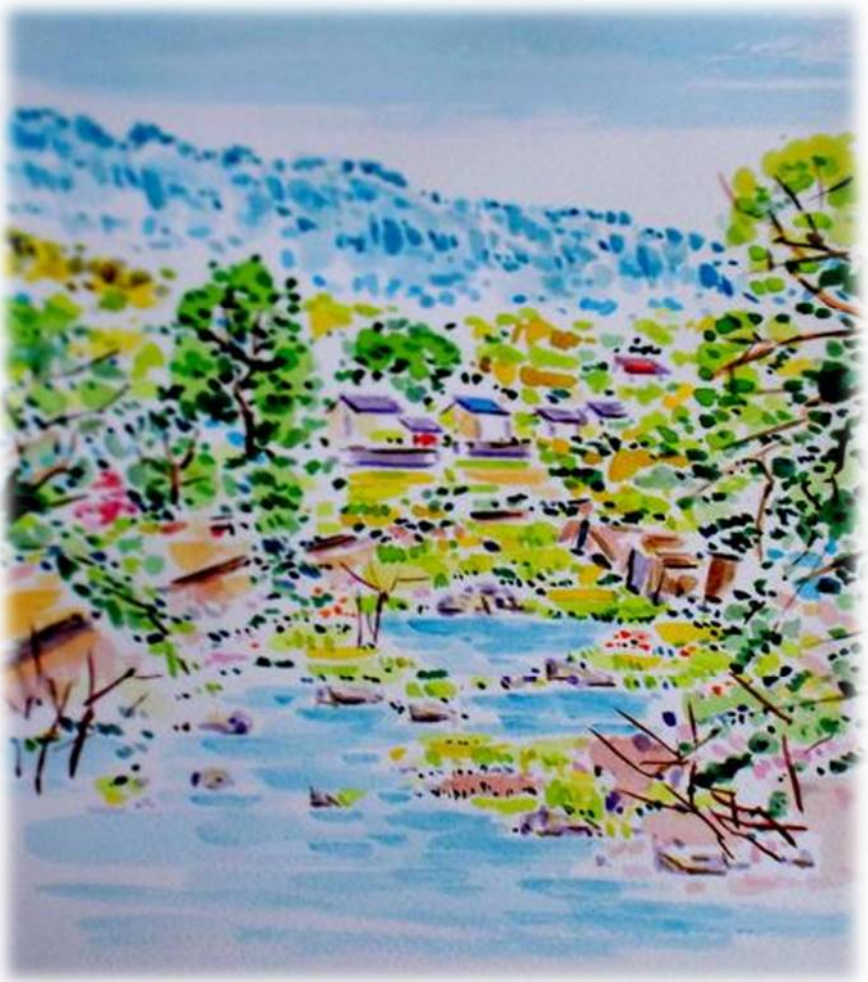
6)

蘆城駅は豊前路の起点的位置にあつたが、大宰府の付属駅としての性格をもち、しばしば大宰府等官人の宴会の場となつて特に送別会に利用された。これは、瀬戸内海と海運が多く利用されるようになると、豊前国府(現・福岡県京都郡みやこが推定地の一つ。)に近い瀬戸内海南西の海域である周防灘に面する草野津(今の福岡県行橋市周辺)から乗船することになるので、豊前路の首である蘆城駅は送別会には好適だったろうとの説がある。

・蘆城の駅家では宴会がたびたび催され、大宰帥大伴旅人が都に帰る時にも、宴会が開かれたことが万葉集に載っている。

(写生地)

古代に蘆城駅家があったと推定される筑紫野市東吉木の水田地帯の付近を流れる万葉集では「蘆城川」と詠まれた今の宝満川の川岸から米ノ山峠（筑紫野市↓筑豊地方・飯塚市の市境）を越えて万葉歌が多く詠まれている福岡県の東北部に位置する香春（福岡県田川郡）をすぎ豊前（福岡県東部と大分県北部を占めた旧国名）の瀬戸内海（周防灘）沿岸地に至る官路「旧田河道」が通る吉木の集落一帯を描く。（杏花）



やすの

2 「安の野（福岡県・筑前町（旧夜須町）」

1) 大宰府政庁（都府楼）跡から蘆城駅家跡（筑紫野市東吉木の水田地に推定）を通りおよそ15キロ南東にある福岡県中央部に位置する筑紫平野の北端にあたる福岡県朝倉郡夜須町（2005年朝倉郡筑前町に合併）一帯の広い野原が古代の「安の野」であり大宰府官人たちの狩猟、宴遊の場であったのではないかと伝えられている。

2) 「安」という地名は【日本書記】に「神功皇后が羽白熊鷲という賊（筑紫の豪族）を討ち果たし（我が心、安し）」と語られたとの故事からこの地を【安】という」と記している。

・「安の野」で大宰帥（長官）大伴旅人が部下の大式だいに（次官）丹比たぢひの 縣守あがたのもりが栄進し帰京した際の次の送別の歌がある。

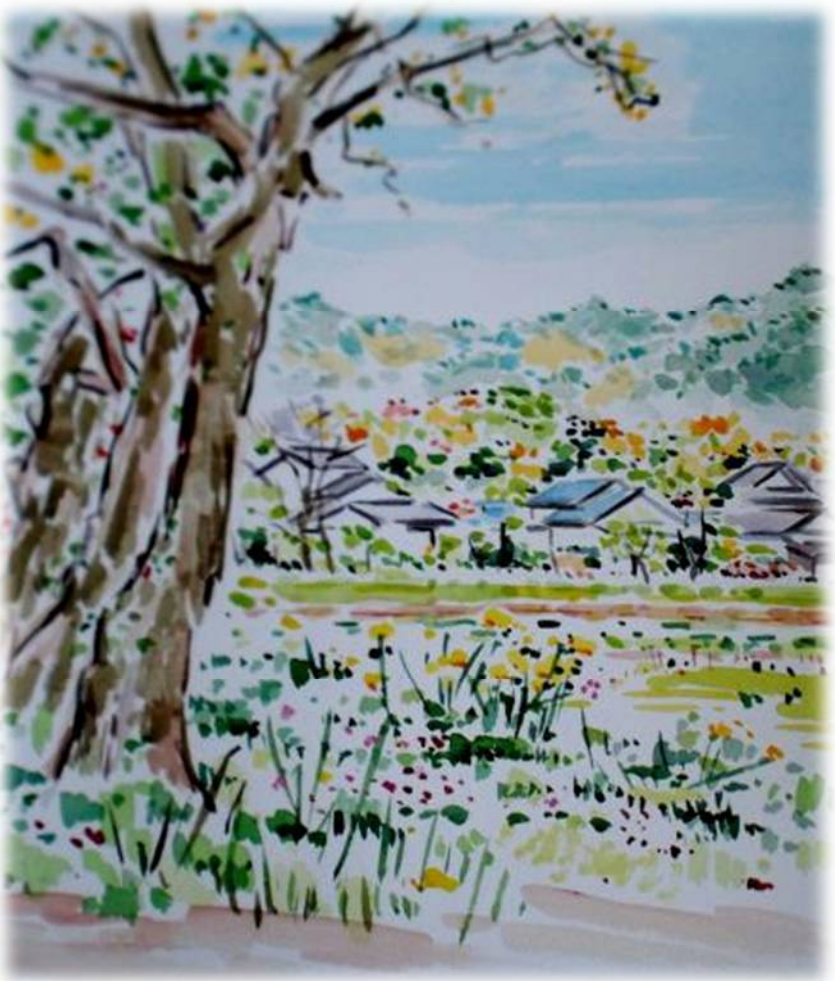
君がため、醸かみし待酒 安の野に ひとり
や飲まぬ 友なしにして

卷四—555 作者 大伴旅人

（解説）あなたの為にわざわざ造った待ち酒を、私は安（夜須）の野で独りさみしく飲むことになるのでしょうか。語り合う友もな

いのに。と離別の寂しさを述べたもの。他にも酒の歌を詠い、いかにもお酒が好きだったと思われる旅人の歌である。

(写生地) 福岡県筑紫野市南部の西鉄天神大牟田線「朝倉街道駅」から西鉄バスで「朝倉街道」(福岡県道112号線の通称)「南東」に位置する筑前町(旧夜須町)長者町停留所におりると周囲は田畑がよく開け、昔の野原の面影がないがこの辺り一帯が「古代の安(今の夜須)の野」の一角であったと推定されている。この地から北部にある夜須高原方向の夜須の野の風景を描く。(杏花)

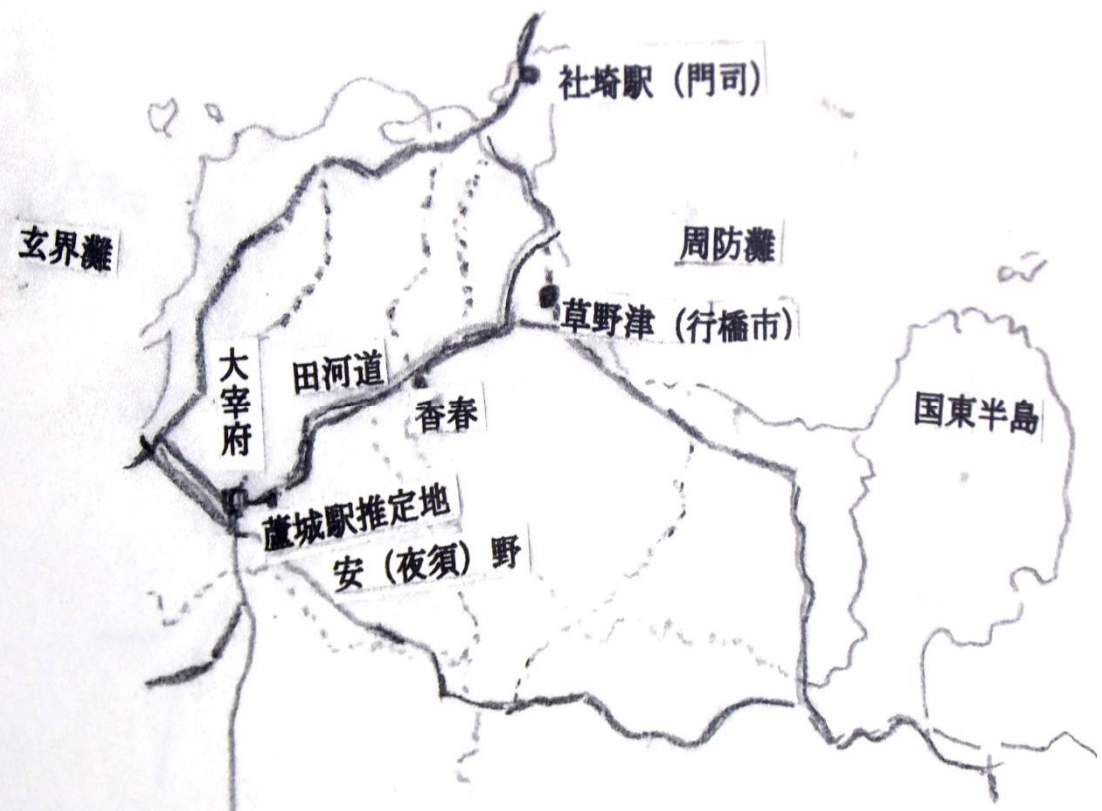


(参考文献)・木下良著「事典古代の首と駅」・「筑紫野市ふるさと散歩」

・中村行利著「万葉と九州」滝口弘「九州の万葉」等

(参考)

「古代の交通路（豊前路・田河道）位置図



・木下良著「古代道路と条里制」香春史参照